

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

三宅町長 森田 浩司

市町村名 (市町村コード)	三宅町 (29362)
地域名 (地域内農業集落名)	屏風 (全域)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和 6年 2月 26日 (第1回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

当地区は、ごく一部の放棄地を除くすべての農地で水稻栽培を中心とした耕作が行われており、美しい田園風景が保たれている。
しかしながら、耕作者(所有者)の平均年齢が72.2歳、耕作者のうち60代以上が占める割合が84.9%と非常に高齢化がすすんでおり、今後耕作者の離農に伴う担い手不足による耕作放棄地化が懸念されている。そのため、地域内外問わず新たな担い手を確保していく必要がある。
【地域の基礎的データ】
耕作者(所有者):53人(うち50歳代以下8人)
主な作物:水稻

(2) 地域における農業の将来の在り方

農地の9割を占める水田について、農作業の省力化及び効率化を図るため、一団で実施するドローンを活用した農薬及び肥料の散布など、スマート農業の推進を行っていく。また、収益向上を目指し農地の集積・集約化を進めるとともに、特別栽培米や有機栽培米の取組など、環境に配慮した水稻栽培を推進し、他産地との差別化を図っていく。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	16.8 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	16.8 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農振農用地区域内の農地を対象とし、東屏風団地を境に西側と東側の2つのエリアに分けて設定する。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地中間管理機構を活用し、担い手へ農地の集積・集約化を進めていく。
(2)農地中間管理機構の活用方針
担い手の経営意向を汲みながら、農業上の利用を行う意思の無い区域内的の農用地を農地中間管理機構に貸し付け、段階的に集約化を進めていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
担い手のニーズを踏まえ、農地中間管理機構関連の農地整備事業等を活用しながら検討していく。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
県や農地中間管理機構、JA等と連携し、地域内外問わず担い手を募集し、相談から定着まで切れ目のない取り組みを展開する。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
担い手の確保が困難な場合は、必要に応じてJA等の農作業委託を活用し、耕作放棄地の発生防止に努める。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☐ ①鳥獣被害防止対策※	☐ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☐ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☐ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】
③一団で実施するドローンを活用した農薬及び肥料の散布を推進し、農作業の省力化及び効率化を図る。